

第1回ワーキングでの主な意見

会議名	開催日時	場所	出席者
下流域ワーキング	平成26年8月8日(金) 10:00~12:00	加古川総合庁舎2階 A、B、C会議室	28名
中流域ワーキング	平成26年7月29日(火) 14:00~16:00	やしる国際学習塾 中会議室	51名
上流域ワーキング	平成26年8月7日(木) 15:00~16:30	丹波の森公苑 セミナー室	17名

項目		会議	意見等	推進計画への記載等
全般		下流WG	莫大な資料であり、すぐに意見は出しにくい。	後日、意見があるか確認させて頂く。
計画地域の概要	土地利用	上流WG	土地利用図の数値と軸を統一するようにグラフの修正が必要	土地利用図を修正。
河川・下水道対策	河川の整備状況	中流WG	加古川水系国管理区間の改修を行った区間について、整備が済んでいると誤解を招く恐れがある。	図面の凡例を「改修を行った河川（区間）」から「改修に着手した河川（区間）」に修正。
		中流WG	整備が完了していない区間が、整備済み区間として記載されていることから、記載方法については検討が必要。	
		上流WG	河川整備計画の計画期間が20、30年であるが、総合治水推進計画の計画期間が10年で整合が取れるのか。	（回答）河川整備の計画期間は20、30年であり、その中で、総合治水推進計画を10年後に見直していこうと考えている。また、整備計画に基づき、近年10年に工事を計画している箇所については、着実に進めていこうと考えている。
	河川の維持管理	下流WG	河床が上がっており、定期的に維持浚渫等の維持管理が必要である。	維持管理について以下のように記載。 「河川の特性・整備の段階を考慮し、現状の施設が機能低下しないよう、計画的かつ適切な維持管理を行う。」

項目	会議	意見等	推進計画への記載等	
河川・下水道対策 施設の管理	上流WG	近年大雨で増水する速さが速くなっており、樋門管理を適正に行わなければ、水が逆流し、田んぼが浸水する状態が発生している。樋門の管理者、特に民間が管理する樋門の管理者に対して、操作マニュアルが必要である。	(3) 許可工作物の章を新たに追加し、下記のように記載。 「井堰及び樋門等の許可工作物について、河川管理上支障となることが予想される場合は、国及び県、市町は、それぞれの管理河川における施設管理者に速やかに点検・修理等の実施についての指導・監督を行う。また、施設管理者等は、巡視等において、これら工作物の状況を把握する。 さらに、施設管理者は、操作員への操作規則の明示や操作の指導等、操作員が適切な施設操作を行えるよう努める。」	
	上流WG	樋門操作の経験が不足している操作員もいる。操作についての勉強会が必要ではないか。		
流域対策	5-2 土地等の雨水貯留浸透機能の確保 (1)ため池	上流WG	どの程度の大きさのため池が取り組みの対象となるのか。	(回答) 危険なため池では実施しない。ため池の改修に合わせて、相談しながら取り組んでいきたいと考えている。
		下流WG	ため池は、池底掘削した場合、水が抜けてしまう場合もあり、例示の図は、適切でない。	例示の図を記載しない。
		下流WG	ため池の水位を下げる場合、「同意を得た場合」と記載されているが、「水稻の作付けに影響のない範囲で」が、営農者には分かりやすい。	以下のように記載。 「水稻の作付けに影響がない範囲において、ため池管理者の同意を得られる場合には、堆積土砂の撤去等や洪水吐の切り下げ改良等、ため池の雨水貯留機能の向上に努める。」
	下流WG	稲美町のため池の数が73箇所と記載があるか、数値の精査をお願いしたい。	数値の精査を実施する。	
	5-2 土地等の雨水貯留浸透機能の確保 (2)水田	上流WG	時期によって田んぼダムの取り組みは必ずしも受け入れられるとは限らない。	以下のように記載。 「営農者等の理解と協力を得た上で取り組みを実施する」と記載。
		下流WG	稲美町の水田の面積が1,398haと記載があるか、数値の精査をお願いしたい。	数値の精査を実施する。
5-2 土地等の雨水貯留浸透機能の確保 (3)学校・公園、その他大規模施設	上流WG	篠山市の官公庁が61で丹波市11になっているが、数値の精査が必要。	数値の精査を実施する。	

項目	会議	意見等	推進計画への記載等
流域対策 5-6 森林の整備及び保全	上流WG	スギやヒノキ等の人工林が多く、今の山林は保水力が低い。山林を見ずに総合治水は解決できない。	森林整備に関する取り組みとして、災害に強い森作りの取り組み事例を記載する。 また、「3 総合治水の推進に関する基本的な方針」で「県、市町及び県民は、各ブロックの特性に応じ、ため池や水田、学校、公園などを活用した、雨水貯留浸透機能や森林の整備及び保全により、保水機能等を確保することにより、地先での浸水被害の軽減や河川や下水道などへの雨水の流出を抑制する。」と記載する。
	上流WG	「ながす」「ためる」「そなえる」に、保水という観点で、「保つ」ということが必要ではないか。	
	上流WG	上流域ブロックでは、山林が占める割合が多く、山林整備をどのように実施するか、具体的な記載が必要。	
減災対策 6-6 建物等の耐震機能の確保	上流WG	垂直避難と遮水壁等の耐水機能を確保する手法の関連性は。	(回答) 遮水壁によって、家屋への浸水を防いで、なおかつ上に逃げるのが可能となると考えられる。
	下流WG	自分の命は、自分で守ること。「そなえる」ことが重要。フェニックス共済の加入もそのひとつ。	—
		下流WG	一方、被災者に対しては、もっと手厚い支援が必要である。